

# おおてみち

## 第63号

平成20年(2008年)3月31日  
滋賀県立安土城考古博物館



鳥居遺跡と石舞台古墳  
(明日香村教育委員会提供)



飛鳥寺素弁蓮華文軒丸瓦  
(明日香村教育委員会蔵)



尼寺廃寺出土舍利莊嚴具  
(香芝市教育委員会蔵)



新堂廃寺鴟尾 (大阪府教育委員会蔵)

平成20年度春季特別展

## 仏法の初め、 茲より作れり

はじめ

これ

おこ

— 古墳から古代寺院へ —

会期

平成二十年

四月二十六日(土)

～ 六月八日(日)

平成20年度春季特別展

# 仏法の初め、はじ 茲これより作れりおこ

—古墳から古代寺院へ—

古墳時代を象徴する大規模な前方後円墳は、六世紀以降、一部を除いて縮小化し六世紀末には終焉を迎えます。その後も七世紀から八世紀初頭、大和を中心とする近畿地方では、大王・有力豪族の墓として、八角形墳や大型の円墳が築造され、全国各地でも引き続き小規模な横穴式石室墳の造営が続き、七世紀末には消滅します。

いっぽう、六世紀後半に百濟から仏教が正式に伝えられると、当初は豪族間の抗争に巻き込まれますが、時の権力者である蘇我氏が先頭に立って寺院を建立し、仏教の隆盛を進めていきます。こうして、新しい国家理念として導入された仏教は、朝廷・諸豪族の崇敬するところとなり、中央から全国各地に大規模な寺院が造営され、いわゆる飛鳥文化・白鳳文化が開花しました。

本展では、発掘調査の成果を視野に入れつつ、古墳時代から古代律令国家へ移行する時期の様相を、終末期古墳や寺院などから出土した考古資料、そして複製資料などを用いて展示します。

主な展示資料(○は重要文化財 △は市指定文化財)

- 四天王寺出土資料 (四天王寺蔵)
- 山田寺跡出土資料 (奈良文化財研究所蔵)
- 海会寺跡出土資料 (泉南市教育委員会蔵)
- 八幡観音塚古墳出土資料 (高崎市観音塚考古資料館蔵)

- △ 車上り瓦窯跡出土資料 (宇治市歴史資料館蔵)
- △ 尼寺廃寺出土舍利莊嚴具(香芝市教育委員会蔵)
- △ 崇福寺跡出土資料 (近江神宮蔵 大津市歴史博物館保管)
- △ 山ノ神遺跡出土鷲尾 (大津市教育委員会蔵)
- △ 法隆寺若草伽藍出土資料 (法隆寺蔵 奈良文化財研究所保管)

- 雪野寺出土塑像断片 (個人蔵 滋賀県立琵琶湖文化館保管)

## 関連行事

### ●特別展記念連続講演会

5月3日(土・祝) 午後1時30分  
「古代寺院の造営をめぐる歴史的背景」

小笠原 好彦氏(滋賀大学名誉教授)

5月25日(日) 午後1時30分  
「仏教の受容と蘇我氏」

相原 嘉之 氏(明日香村教育委員会)

6月8日(日) 午後1時30分  
「近江の古代寺院」

北村 圭弘 氏(滋賀県教育委員会)

※会場はいずれも  
滋賀県立安土城  
考古博物館セミ  
ナールーム。定  
員は140名(当  
日先着受付順、  
参加無料)



野々目廃寺出土瓦  
(愛荘町立歴史文化博物館蔵)

## (財) 滋賀県文化財保護協会調査整理課通信

### 発掘調査報告書できました!

調査整理課では、平成十九年度に十二件の整理調査を行い、平成二十年三月末までに六件七冊の発掘調査報告書を刊行しました。

発掘調査から二十五年を経て、ようやく刊行に至ったのは、草津市に所在する縄文時代の津田江湖底遺跡と弥生時代の玉作工房や方形周溝墓群である烏丸崎遺跡です。また、大津市域を対象とした湖西南部の湖底・湖岸遺跡の報告書では、平安時代を中心に多様な土器類が出土した浮御堂遺跡や唐崎遺跡などの成果をまとめました。

また、縄文時代の豊富な遺物が出土している米原市入江内湖遺跡は、シリーズの2巻目を刊行しました。この他、角錐状石器や中世の木製品が出土した大津市関津遺跡、安養寺廃寺関連遺物・近世導水管などを検出した近江八幡市安養寺遺跡・辻野遺跡、甲賀武士高野氏の居城である甲賀市高野城遺跡、寺院関連の鑄造工房と埋没古墳を検出した高島市酒波寺遺跡についても、成果をまとめました。これら平成十九年度に報告書を刊行した遺跡については、平成二十年度に刊行報告会として地元などで成果発表を行う予定です。

## 収蔵資料紹介

### 木造女神坐像 一躯

奈良県川上村玉龍寺所蔵

像高 三一・〇cm

この何とも不思議な姿をした像は、奈良県吉野郡川上村白屋の玉龍寺観音堂に伝来した女神像です。昨春秋に開催した特別展「戦国・安土桃山の造像Ⅱ 神像彫刻編」において初公開させて頂き、大きな注目を集めたのは記憶に新しいところです。

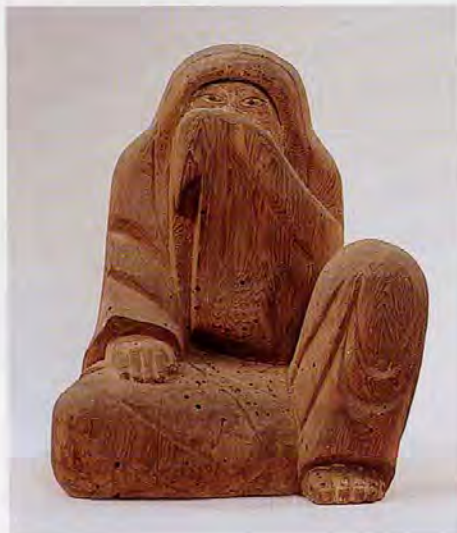
像は内刳りのない一木造で、神像に相応しい古様なつくりを見せています。衣文線が少なく、全体的に簡潔な作風を示すところも、いかにも神像彫刻らしい点です。また、片膝を立てる坐法も、女神像でしばしば行われています。しかし反面、身に纏った衣を頭部にかけ、袖中に隠した左手で鼻より下の面相部をおおう表現は、まことに異色あるものと言えるでしょう。

数ある女神像の作例には、滋賀・建部大社木造坐像（重要文化財、平安時代）の様に口許に袖を当てたり、香川・神谷神社石造坐像（平安時代）の如く扇で口を隠すなどの表現

が見られますが、本像のように、両眼以外を全ておおい隠す例は他に類がありません。そのため、制作時期の推定は難しいところですが、総体に硬化した彫技から見て、室町時代（十五〜十六世紀）あたりに置くのが妥当なところでしょう。

ところで、川上村白屋地区は、大滝ダム建設の影響により地すべりが発生し、全戸移転を余儀なくされた地域です。この女神さんに安土までお出まし頂いたのは、丁度そのような時期でした。そこで、玉龍寺の諸堂が移転先で完成するまでの数年間、当館でしばらく仮すまいをされることになったのです。今後、常設展示にも時折ご出座頂く予定なので、特別展を見逃された方もご期待下さい。

（山下 立）



## 安土城郭調査研究所通信

### 百々橋―大手口間に二つ目の虎口発見

前回、百々橋と大手西枡形虎口までの町道沿いの郭の環境整備工事に伴う発掘調査で新たな虎口が発見されたと報告しましたが、その後石垣復元工事で土を除去していたところ、前回報告した虎口から東へ約24メートル離れた所から二つ目の新たな虎口が見つかりました。虎口の幅は4.5メートルで石段が3段分と虎口の東端に側溝が設けられていました。石段の踏石は1メートル大の石を用いており、先に見つかった虎口より見栄えのするものです。二つの虎口内の構造が異なっていることから用途が違っていたと思われるのが、ちょうど百々橋―大手口の間にある上下二段に分かれた下段郭のそれぞれ東端・西端に位置しており、双方は関連していると思われる。

西側の二つ目の虎口が見つかった段階で、虎口が面している陸路は城内路の可能性があると述べましたが、この二つ目の虎口が見つかったことで、城内路になる可能性がより高まったと考えられています。



# 博物館の主な催し

6 月	5 月	4 月	月
春季特別展「仏法の初め、茲より作れりー古墳から古代寺院へー」 4月26日(土)～6月8日(日)			展示
<p>6月19日～7月6日 写生大会作品展 7月19日～9月7日 第36回企画展</p> <p>「古代地方木簡の世紀ー西河原木簡を中心にー」</p>	<p>1日(日) 体験博物館「古代の寺を知ろう」(要申込、先着20名) 時間：午後1時30分～約2時間 場所：東近江市法堂寺庭寺 参加費：無料</p> <p>8日(日) 博物館講座「近江の古代寺院」(当日受付、先着140名) 講師：北村圭弘氏(滋賀県教育委員会) 時間：午後1時30分～午後3時</p> <p>25日(日) 博物館講座「仏教の受容と蘇我氏」(当日受付、先着140名) 講師：相原嘉之氏(明日香村教育委員会) 時間：午後1時30分～午後3時</p> <p>18日(日) 体験博物館「古代瓦を調べよう」(要申込、先着20名) 時間：午後1時30分～約2時間 場所：安土城考古博物館 参加費：実費(材料費) 500円</p> <p>5日(祝) 体験博物館「勾玉をつくる」(要申込、先着各20名) 時間：午前10時～約2時間 午後1時30分～約2時間 場所：安土城考古博物館 参加費：実費(材料費) 500円</p> <p>4日(祝) 「近江風土記の丘」を描こうー親子写生大会(当日受付) 時間：午前10時～午後4時(雨天の場合は5日に順延) 場所：「近江風土記の丘」内の各地 参加費：無料</p> <p>3日(祝) 特別展記念講演会 「古代寺院の造営をめぐる歴史的背景」(当日受付、先着140名) 講師：小笠原好彦氏(滋賀大学名誉教授) 時間：午後1時30分～午後3時</p>	<p>27日(日) 春のお茶会(当日受付、約100名) 時間：午前10時30分～午後3時 場所：当館1階エントランスホール 料金：500円 お茶、菓子代(実費)</p> <p>29日(祝) スライド発表会「安土城最新情報」(当日受付、約140名) 時間：午後1時30分</p>	博物館の行事

\*講演、講座は当館セミナールームで行います。(無料)

## 入館者九十万人を達成しました

滋賀県立安土城考古博物館の年間入館者は、近年五万人前後で推移してきました。今年の冬は週末ごとに雪が降ったため、入館者の減少が心配されましたが、第35回企画展「信長と安土城ー収蔵品で見る戦国の歴史ー」が好評で、多くのお客様が展覧会に足を運ばれました。

そのような中、平成二十年二月十六日(土)には入館者延べ人数が九十万人に達しました。

記念すべきお客様は、修学旅行で来館した神奈川県の中三年生の団体でした。生徒代表が、にわか式典会場になったエントランスホールにおいて、大崎館長から九十万人目を証明する認定書の交付を受けました。続いて記念品と花束の贈呈があり、最後に記念撮影を行ってセレモニーは終了しました。

次の目標である入館者百万人に向かって、これからも皆様に親しんでいただける博物館を目指して行きたいと考えています。ご来館を心からお待ち申し上げます。



おおてみち 第63号  
平成20年(2008年)3月31日発行

編集・発行 滋賀県立安土城考古博物館  
〒521-1311 滋賀県蒲生郡安土町下豊浦6678 TEL 0748-46-2424  
E-mail: gakugei@azuchi-museum.or.jp URL http://www.azuchi-museum.or.jp